

# 条例って、どうつくれば『使えるもの』になる？

鈴木先生のお話から、条例を考える5つのポイント



鈴木先生のお話から見てきたこと

## 条例づくりは、『大切なことを書く』だけじゃない。



何を大切にする？  
誰の、どんな権利を  
守っていききたい？

×



どんな言葉で書く？  
宮古島の暮らしや思いに寄り添える、  
やさしく、誰かが何かをこぼれないように。

×



どうすれば実際に使える？  
声を受け止め、考え、答え、  
必要なところにつなぐ仕組みまで考える。

## 宮古島で大切にしたいことを、『どんな言葉』で『どんな仕組み』にする？

# みんなの声から見えてきたこと

条例を実際に読んでみたからこそ、  
「こんな条例にしたい！」という声が見えてきました。

## ① 子ども自身が「使える」条例にしたい

「守ってもらう」だけでなく  
**自分でも使える**

困ったときに、  
「条例ではこうなっているよね」と  
子ども自身が確かめたり、  
声を届けたりできる条例にしたい。



子ども自身が  
使える条例に  
できたらいい

困ったときに、  
自分でも条例を  
見られたらいい

## ② 宮古島の暮らしが見えるくらい具体的な条例にしたい

**具体的に。**  
でも、こぼさない。

宮古島の困りごとや生活の場面が  
思い浮かぶくらい具体的だと、  
「自分にも関係する」と分かりやすい。  
でも、書かれていない人や場面が  
こぼれないようにもしたい。

【具体的にする】  
＋  
【書かれていない人や  
場면을こぼさない】

この2つを  
一緒に考えたい

前文だけでなく、  
条文本体にも  
みんなの声を  
入れたい

書かれていない人や  
場面が抜けないように  
したい

## ③ 「相談できる」だけでなく 相談しやすくしたい

**身近なところで  
話せることも大切**

「市役所」や「家族委員会」と書かれていても、  
子どもにとっては相談しにくいことがある。  
普段の生活の中で話を聞き、  
必要なところにつないでくれる  
身近な人や場所もほしい。



市役所に行くのは、  
小学生にはハードルが高い

身近な存在が必要

相談したことを  
知られたくない子もいると思う

## ④ 自分たちのルールだから つくるときから関わりたい

**勝手に決めない**

自分の知らないところで決まったルールは  
「どうして？」という反発にもつながる。  
子どもも大人も、  
意見を出し、話し合いながら  
つくっていくことが大切。



自分の知らないところで  
勝手に決められるから反発する

決める過程に  
加わるのが大事

子どもの意見も  
ちゃんと聞いてほしい

第3回を通して、  
市民委員の考えは…

「条例を知る」から  
「どんな条例にしたい？」へ。

- ・ 子ども自身が使える
- ・ 宮古島の暮らしに合っている
- ・ 安心して相談できる
- ・ つくる過程にも参加できる

そんな条例にしたい、という声が見えてきました。

次回へ →

宮古島の条例に、  
何を入れたい？